

平成12年度

日南市内遺跡発掘調査概報

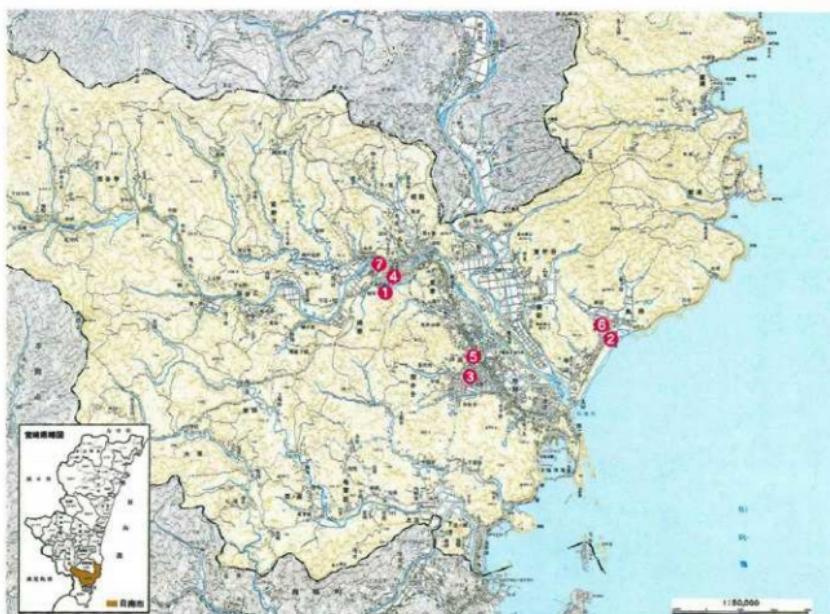
2001.3

宮崎県日南市教育委員会

平成12年度

日南市内遺跡発掘調査概報

1. 飫肥城下町遺跡（中村邸）
2. 狐塚古墳周溝確認調査
3. 日南労働基準監督署建設予定地
4. 飫肥城下町遺跡（旧安藤正春家）
5. スーパー・トムラ吾田店建設予定地
6. J-フォン九州株式会社携帯電話無線基地局建設予定地
7. 飫肥城本丸跡遺跡



2001.3

宮崎県日南市教育委員会

飫肥城跡遺跡



【株スカイ・サーベイ森氏撮影】

序

この報告書には、日南市教育委員会において平成12年度に実施した埋蔵文化財の有無を確認するための発掘調査の概要を記載しております。

日南市内においては、ここ数年間毎年平均5～6件の開発行為に伴う確認調査を行ってきました。開発の傾向としては、公共機関に関するものはもちろん、電気や道路、病院に関するものや情報通信分野の拡充に伴う大手3社による携帯電話の無線基地局の整備に関する開発などが目立っています。

こういった状況のもと、平成12年度には、国立療養所内に存在する孤塚古墳の周溝確認調査や大型のスーパー建設に伴う試掘調査、日南労働基準監督署新築工事に伴う試掘調査など、合計7ヶ所の確認・試掘調査を実施することができました。

本市教育委員会において、埋蔵文化財保護の立場から、各種開発行為に先立ち試掘調査を実施することができたことは、非常に有意義なことだと思われます。また、今後市内で行われるであろう多くの各種開発行為に伴う未確認の埋蔵文化財についても、開発側等との充分な情報交換や協議などをすすめ、その保護に資するよう努力を重ねていきたいと思います。

最後になりましたが、調査を実施するにあたり、埋蔵文化財の保護に格別のご配慮とご理解を賜りました各開発関係者各位並びに地元の方々に厚くお礼を申し上げます。また、調査にあたりましては、ご多忙の中、ご指導・ご助言をくださいました宮崎県教育庁文化課を初め、県埋蔵文化財センターの方々にお礼を申し上げます。特に孤塚古墳周溝確認調査では、宮崎大学教育文化学部教授柳沢一男氏にご多忙の中、ご指導・ご助言賜りましたこと紙面上ながら厚くお礼申し上げます。現地調査及び整理作業にご協力いただいた作業員の方々にも重ねてお礼を申し上げます。

平成13年3月

日南市教育長 倉山久信

例　　言

1. 本書は、平成12年度に日南市教育委員会が各種開発行為に先立ち実施した埋蔵文化財の有無を確認するため
に実施した発掘調査の概要である。
2. 掲載した調査地は、日南市飫肥7丁目3790-1の個人住宅新築予定地、日南市大字風田字元弓場364
9番地2の国立療養所日南病院内に存在する孤塚古墳の周溝確認調査、日南市戸高1丁目3-5の日南労働基
準監督署建設予定地、日南市飫肥5丁目2番26号の旧安藤正春家防火水槽埋設工事に伴う確認調査、日南市
中央通2丁目10番地1のスーパー・トマラ吾田店建設予定地、日南市大字風田字元弓場3692番地1のJ
-フォン九州株式会社携帯電話無線基地局建設予定地、日南市飫肥10丁目（飫肥城跡遺跡内）の飫肥城本丸
跡遺跡内での排水施設工事に伴う確認調査の合計7ヶ所である。
3. 調査主体・・・日南市教育委員会

教　育　長	倉山 久信
社会教育課長	石井 孝一
補佐兼文化係長	岡本 武憲
庶務担当	教育秘書課主事 古澤 ヒデ子
調査担当	主　　事 的場 文明
調査作業員	鎌田留次郎、鎌田和枝、黒木正男、黒木力ヨ、田畠フミ子、 前田マサ子、福田スエ、大田原俊太郎、岩永典良、谷口キヨ子、 杉元早苗、杉元香代、平川フミヲ、金丸恵美子、長友ヤツミ、 山室 光（福岡大学学生）他
整理作業員	谷口キヨ子、貴島芳栄、山室 光、川瀬 真 他
4. 現地調査は、的場が行った。
5. 実測及びトレースは、的場、鎌田（留）、山室、谷口が行った。
6. 本書の編集執筆は、的場が行った。
7. 各トレンチについての方位は磁北、レベルは、海拔高にて示した。

本文目次

1. 飯肥城下町遺跡（中村邸）	1
位置と環境	1
調査の経緯	1
調査の結果	1
2. 狐塚古墳周溝確認調査	5
位置と環境	5
調査の経緯	5
調査の結果	6
3. 日南労働基準監督署建設予定地	13
位置と環境	13
調査の経緯	13
調査の結果	13
4. 飯肥城下町遺跡（旧安藤正春家）	17
位置と環境	17
調査の経緯	17
調査の結果	17
5. スーパー・トムラ呑田店建設予定地	21
位置と環境	21
調査の経緯	21
調査の結果	21
6. J-フォン九州株式会社携帯電話無線基地局建設予定地	25
位置と環境	25
調査の経緯	25
調査の結果	25
7. 飯肥城本丸跡遺跡	29
位置と環境	29
調査の経緯	29
調査の結果	29

挿図目次

第1図 飯肥城下町遺跡（中村邸）土層断面図	1
第2図 飯肥城下町遺跡（中村邸）位置図	2
第3図 飯肥城下町遺跡（中村邸）トレンチ位置図	2
第4図 狐塚古墳位置図	7
第5図 狐塚古墳トレンチ位置図	8
第6図 狐塚古墳トレンチ土層断面図	9
第7図 狐塚古墳縦断面図及び横断面図	10
第8図 日南労働基準監督署建設予定地土層断面図	13
第9図 日南労働基準監督署建設予定地位置図	14
第10図 日南労働基準監督署建設予定地トレンチ位置図	14
第11図 飯肥城下町遺跡（旧安藤正春家）土層断面図	17
第12図 飯肥城下町遺跡（旧安藤正春家）位置図	18
第13図 飯肥城下町遺跡（旧安藤正春家）トレンチ位置図	19
第14図 スーパー・トムラ呑田店建設予定地土層断面図	21
第15図 スーパー・トムラ呑田店建設予定地位置図	22
第16図 スーパー・トムラ呑田店建設予定地トレンチ位置図	22
第17図 J-フォン九州株式会社携帯電話無線基地局建設予定地土層断面図	25
第18図 J-フォン九州株式会社携帯電話無線基地局建設予定地位置図	26
第19図 J-フォン九州株式会社携帯電話無線基地局建設予定地トレンチ位置図	26
第20図 飯肥城本丸跡遺跡位置図	30
第21図 飯肥城本丸跡遺跡トレンチ位置図	30
第22図 飯肥城本丸跡遺跡トレンチN.O. 1裏込石検出状況	31
第23図 飯肥城本丸跡遺跡トレンチ土層断面図（N.O. 1～N.O. 4）	32
第24図 飯肥城本丸跡遺跡トレンチ上層断面図（N.O. 5～N.O. 8）	33

図版目次

図版1	飫肥城下町遺跡（中村邸）調査区全景	3
図版2	飫肥城下町遺跡（中村邸）作業風景	3
図版3	飫肥城下町遺跡（中村邸）トレンチNO. 1土層断面	4
図版4	飫肥城下町遺跡（中村邸）トレンチNO. 2土層断面	4
図版5	県指定史跡 狐塚古墳	6
図版6	狐塚古墳トレンチ土層断面（NO. 1～NO. 3）	11
図版7	狐塚古墳トレンチ土層断面（NO. 4～NO. 5）	12
図版8	日南労働基準監督署建設予定地調査区全景	15
図版9	日南労働基準監督署建設予定地作業風景	15
図版10	日南労働基準監督署建設予定地トレンチNO. 1土層断面	16
図版11	日南労働基準監督署建設予定地トレンチNO. 2土層断面	16
図版12	飫肥城下町遺跡（旧安藤正春家）全景	18
図版13	飫肥城下町遺跡（旧安藤正春家）トレンチ土層断面	20
図版14	飫肥城下町遺跡（旧安藤正春家）作業風景	20
図版15	スーパー・トムラ吾田店建設予定地作業風景（遠景）	23
図版16	スーパー・トムラ吾田店建設予定地作業風景（近景）	23
図版17	スーパー・トムラ吾田店建設予定地トレンチNO. 1土層断面	24
図版18	スーパー・トムラ吾田店建設予定地トレンチNO. 2土層断面	24
図版19	J-フォン九州株式会社携帯電話無線基地局建設予定地作業風景	27
図版20	J-フォン九州株式会社携帯電話無線基地局建設予定地トレンチ土層断面	28
図版21	飫肥城本丸跡遺跡作業前、作業風景及びトレンチNO. 1土層断面	34
図版22	飫肥城本丸跡遺跡トレンチ土層断面（NO. 2～NO. 4）	35
図版23	飫肥城本丸跡遺跡トレンチ土層断面（NO. 5～NO. 7）	36
図版24	飫肥城本丸跡遺跡トレンチ土層断面NO. 8及びトレンチNO. 1裏込石検出状況	37

飫肥城下町遺跡

(中村邸)

〔位置と環境〕

個人住宅を新築予定の中村邸は、日南市飼肥7丁目3790-1番地に位置し、飼肥城下町遺跡内に含まれる。

飼肥城下町遺跡は、飼肥藩伊東家5万1千石の城下町として栄えた頃の地割りをそのままに残している。今回の個人住宅建設予定地は、その地割りの中でもっとも下級武士の区割りに属しすぐ西側を酒谷川が流れる位置で、現況では空き地となっていた。

平成6年度には、隣接する上野和太利氏の隠居新築工事の際に、確認調査を実施し、氾濫原であったことを確認している。今回の調査でも、上野氏宅より、酒谷川よりの地点であることなどを考慮すると氾濫原である可能性は、非常に高かったが、文化財の有無確認のために調査を実施した。

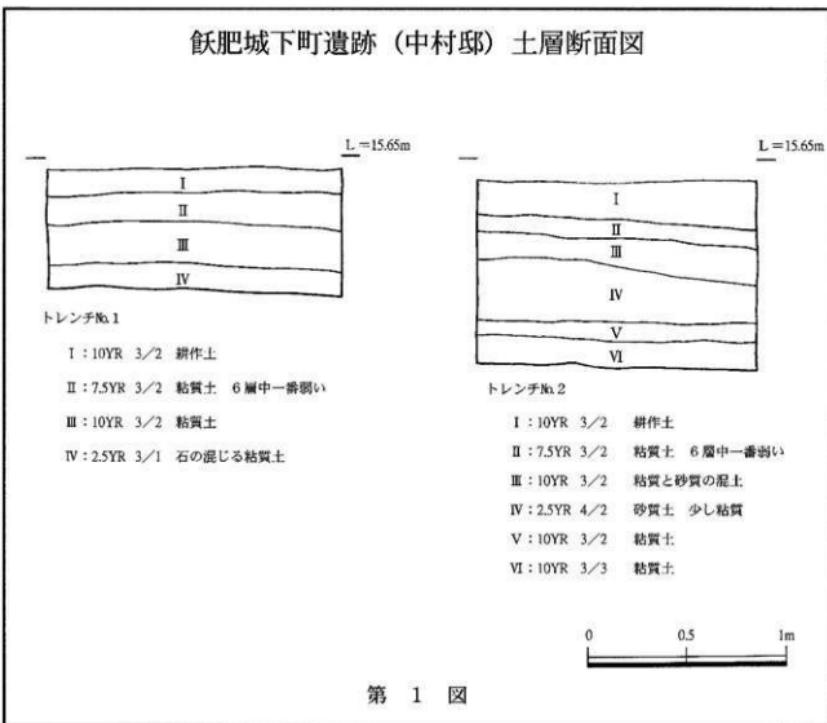
〔調査の経緯〕

今回の調査は、個人住宅建設に伴う埋蔵文化財の有無を確認するための調査である。平成12年5月12日から同年5月16日までの間で確認調査を実施した。調査対象地には、以前は家屋が建っていた。現況では、空き地となっていた。確認調査では、対象地内に1.5メートル*3.0メートルのトレーナーを対象地の東西に2ヶ所設定し、遺構・遺物の検出に努めた。

〔調査の結果〕

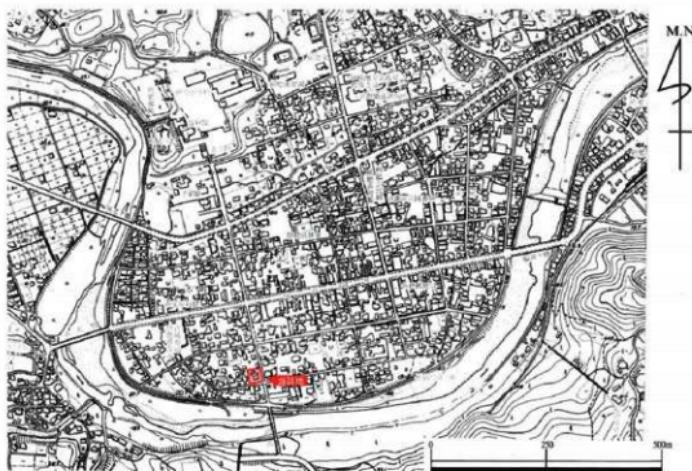
今回の調査の結果、遺構・遺物とも確認されなかった。

飼肥城下町遺跡（中村邸）土層断面図



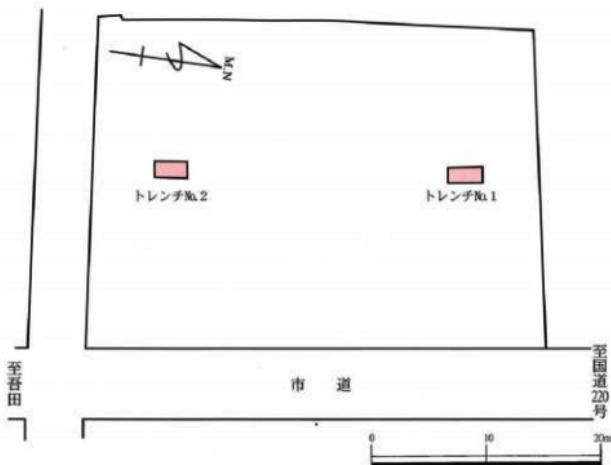
第 1 図

飫肥城下町遺跡（中村邸）位置図



第 2 図

飫肥城下町遺跡（中村邸）トレンチ位置図



第 3 図

飫肥城下町遺跡（中村邸）調査区全景



図版 1

飫肥城下町遺跡（中村邸）作業風景



図版 2

飫肥城下町遺跡（中村邸）トレンチNO. 1 土層断面



図版 3

飫肥城下町遺跡（中村邸）トレンチNO. 2 土層断面



図版 4

狐塚古墳周溝確認調査

〔位置と環境〕

狐塚古墳は、日南市大字風田字元弓場3649番地2の国立療養所日南病院の敷地内に存在する。約180メートル東側には、太平洋が迫る風田川河口右岸の砂丘上に存在する古墳である。

この古墳は、古くからその存在が知られており、平部崎南の「日向地誌」にもその記述を求める事ができる。この日向地誌の中には、狐塚古墳の立地環境や大きさ、そして明治8年に発掘した際の様子や出土した遺物などのことについて記されている。また、同じく平部崎南の記した「六郷荘日誌」にも狐塚古墳に関する記述をみることができる。

その後、狐塚古墳に関する記述は、大正2年（1913）に、県と地元との間で交わされた文書（『県古公文書』）の中に求めることができる。この資料によるとそれまでの資料と大きく違った古墳の図（写生図）や出土遺物の図などが付されている。古墳の図からは、古墳の規模や高さなどにより具体的に把握でき、古墳のすぐそばには、社殿があったことなどもわかる。出土遺物の図からは、勾玉や切子玉、須恵器などが出土したことが見てとれる。

昭和に入り、12年7月2日には、日南市風田字磯平に存在する「東郷古墳」と日南市大字風田字元弓場に存在する「狐塚古墳」は、県指定史跡として指定を受けている。（県告示NO.386）しかし、昭和37年に狐塚古墳の存在する風田地区へ国立療養所が移転新築されると同古墳の県指定は、解除された。また、昭和52年には、同病院の訓練棟建築の際に、羨道部の大半が破壊されてしまった。

その後、平成元年に日南市教育委員会が実施した市内遺跡詳細分布調査の際に、狐塚古墳は周知の埋蔵文化財包蔵地として確認された。同時に墳丘の測量も行われた。

狐塚古墳については、その規模や性格を正確に把握するために平成6年2月から同年11月までに本調査を実施した。同調査では、石室の内部の調査のみを実施し、墳丘部の断ち割調査や周溝確認調査などは、実施できなかった。しかしながら調査の結果、貴重な資料を得ることができた。同古墳の石室内からは、青銅製鉢や辻金具、雲珠などの馬具、刀つばや刀剣、鉄鎌などの武具、耳環や水晶製勾玉、管玉などの装飾品、須恵器など多種多様にわたり、なかでも青銅製鉢は、県内で2例しか出土例のない貴重な発見となった。また、天井部分や側壁部分は、崩落し、羨道部分はその大半が破壊され、築造当時の横穴式石室の原形をとどめてはいないものの玄室の大きさでは、国指定特別史跡「鬼の窟古墳」や同じく国指定特別史跡「千畳古墳」の玄室より一回り大きいことが判明した。県内では横穴式石室を主体とする古墳として、最大規模の終末期古墳であることが判明した。直接的には、古墳とは関係しないものの平安時代に入ると同石室内で、製塩業が営まれていたことを示す炉跡と約300点に及ぶ布目庄痕土器が発見されている。県内で製塩遺構を確認できたのは、狐塚古墳が初めてである。

狐塚古墳については、平成12年9月21日に再び県指定史跡として指定を受けた。

〔調査の経緯〕

狐塚古墳は、その周囲に病棟などの建築物が迫っており墳丘の形状や規模は不明となっていた。狐塚古墳の石室や墳丘は、破壊や崩落などのため原形をとどめていなかったが、玄室の規模や出土遺物などから考慮すると県指定史跡としての価値が十分考えられたため、再度県指定とするための基礎データ取得のために調査を実施した。

調査にあたっては、県指定としてどの範囲までを古墳の指定区域とすることが妥当かを判断する事を最大の目的として実施した。古墳の指定範囲は、墳丘全体が入る区域を選定することが適當ではあるが前述のとおり、狐塚古墳の場合は横穴式石室近くまで建築物が迫っているため、現状では墳丘を確認することはできなかった。そこで、指定範囲を確定するため、周溝の有無及び形状から墳形を復元想定すべく周溝確認調査を実施した。

調査に際しては、より効率的に確認調査を実施するために宮崎大学教育文化学部教授柳沢氏にあらかじめ、周溝の存在が予想される地点を予測していただき、5カ所のトレンチを設定した。周溝確認調査は、平成12年5月17日から同年5月29日までの間で実施した。5月19日には、宮崎大学教育文化学部教授柳沢氏により、現地指導をいただいた。

〔調査の結果〕

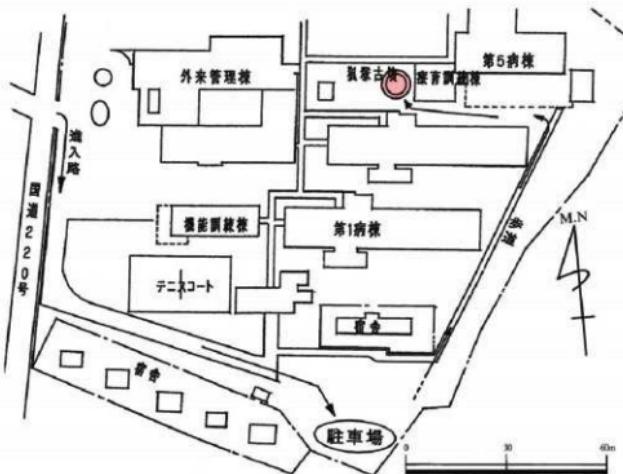
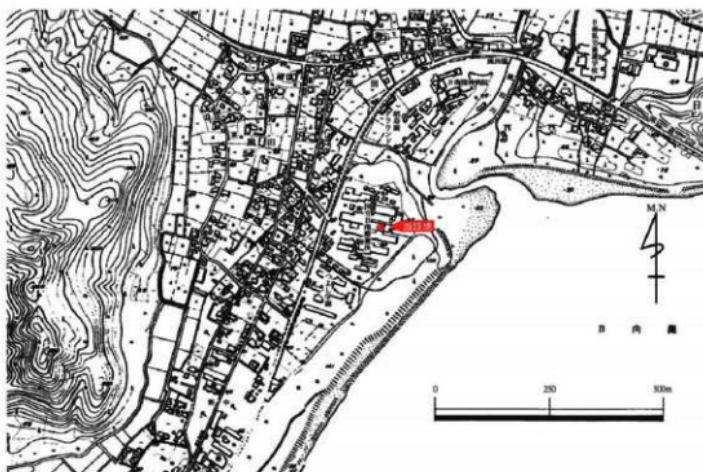
今回の確認調査結果では、周溝は確認されなかった。調査では、トレンチNO. 1がもっとも長く12.5メートル、NO. 2が6メートル、NO. 3が7.5メートル、NO. 4が1.8メートル、NO. 5が2番目に長いトレンチで、9.5メートルを設定した。病院の建築物と横穴式石室の立地状況からトレンチNO. 1とNO. 2にもっとも高い周溝の存在が期待された。しかし、病院の移転新築の際に予想よりもかなり広範囲でしかもかなり深い部分にまで掘削などが行われていたことと当初の病院建設後にも配管の敷設工事や訓練棟の増築など開発が進んでいたことにより古墳の周溝は検出できなかった。この調査結果をもとに狐塚古墳の県指定区域は、横穴式石室を中心とした427.71mとした。(第5図参照)

県指定史跡 狐塚古墳



図版 5

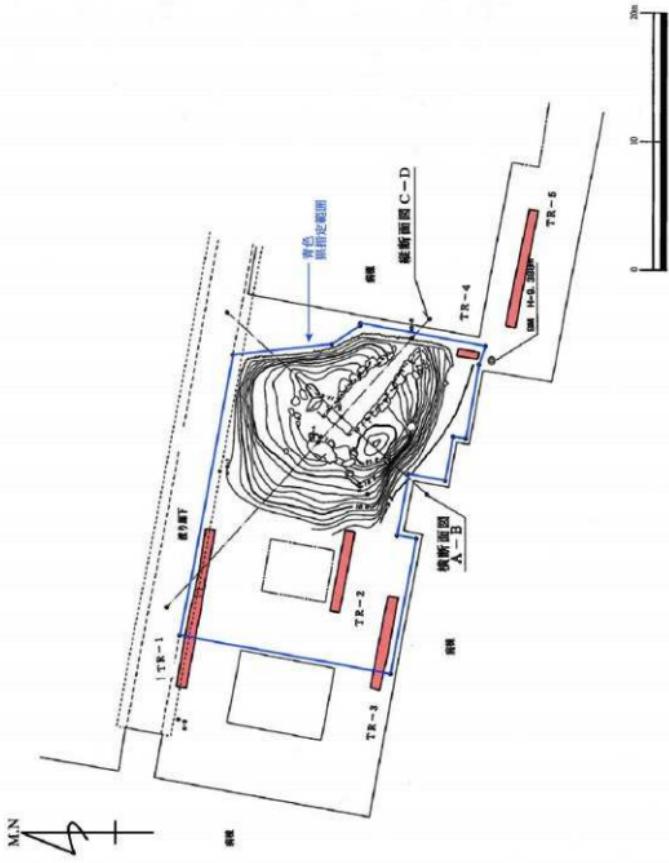
狐塚古墳位置図



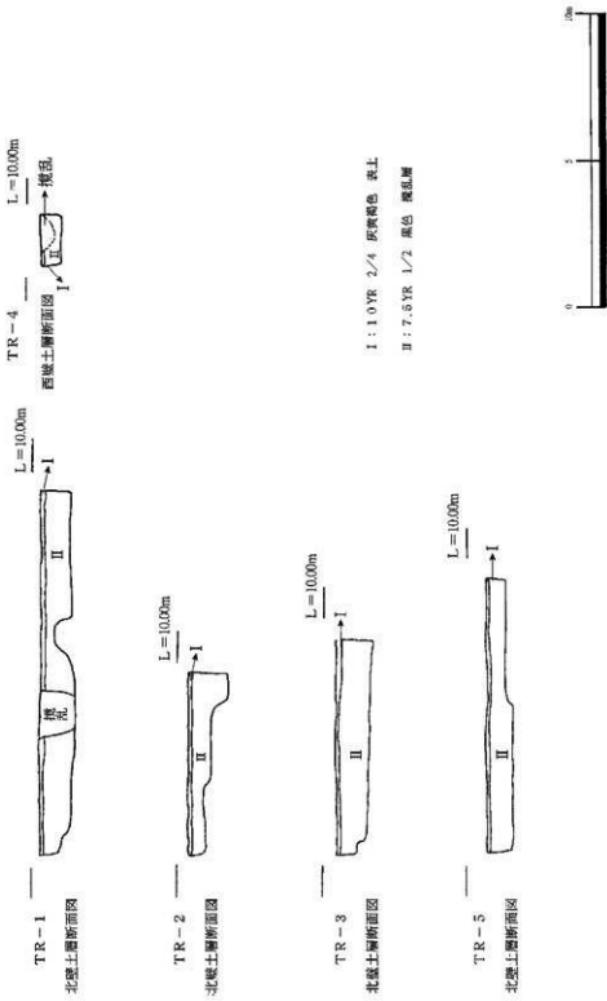
第 4 図

第5図

狐塚古墳トレンチ位置図



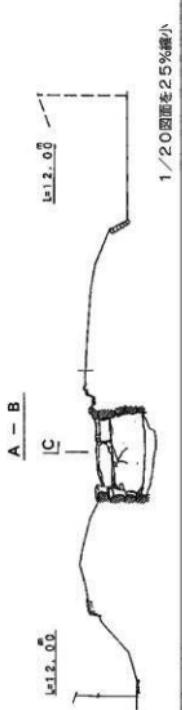
狐塚古墳トレンチ土層断面図



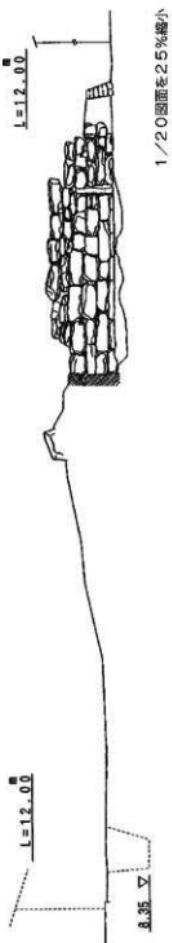
第 6 図

狐塚古墳縦断面図及び横断面図

横断面図



縦断面図 C - D



狐塚古墳トレンチ土層断面 (NO. 1~NO. 3)



トレンチNo.1 (東から)



トレンチNo.2 (東から)



トレンチNo.1 (南から)



トレンチNo.3 (東から)



トレンチNo.2 (東から)



トレンチNo.3 (南東から)

狐塚古墳トレンチ土層断面 (NO. 4~NO. 5)



トレンチNo.4 (東から)



トレンチNo.5 (北東から)



トレンチNo.4 (東から)



作業風景



トレンチNo.5 (東から)



測量作業風景

日南労働基準監督署建設予定地

【位置と環境】

日南労働基準監督署建設予定地は、日南市戸高1丁目3-5に位置する。周知の埋蔵文化財包蔵地には、含まれないものの文化財の有無を確認するために試掘調査を実施した。当該開発予定地は、日南市文化センターの西側に位置し、現在は空き地となっているが以前は、宮崎県の保健所が立地していた場所である。平成8年度には、当該地より南東に100メートルほどの位置に存在する九州電力(株)日南営業所の社屋建設予定地内の試掘調査にて弥生土器片を数点検出した経緯などから、試掘調査を実施することとした。

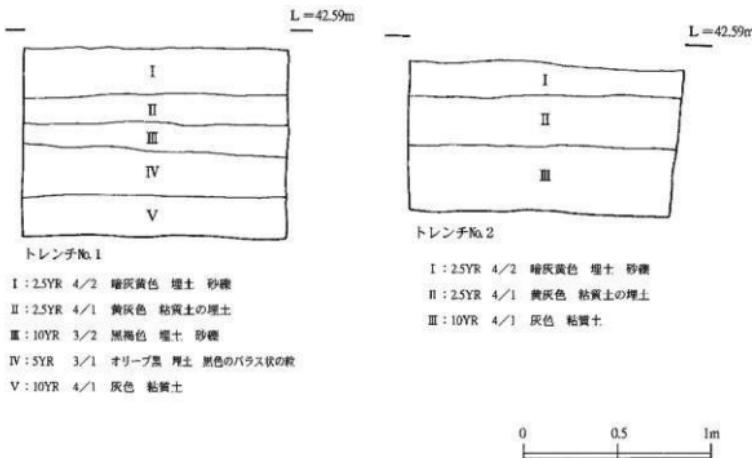
【調査の経緯】

今回の調査では、以前当該地に建築物が存在していたことを、把握していた。しかし、平成8年度に近接する開発行為に際しての試掘調査の結果、土器片などを検出したため、文化財の有無を確認するために実施した。試掘調査は、平成12年7月5日から同年7月10日までの間で実施した。調査対象地は、以前は、保健所の主屋が建っていたが、現在では、空き地となっていた。試掘調査では、対象地内に1.5メートル×3.0メートルのトレンチを対象地の北南に2ヶ所設定し、遺構・遺物の検出に努めた。

【調査の結果】

今回の調査の結果、遺構、遺物とも確認されなかった。

日南労働基準監督署建設予定地土層断面図



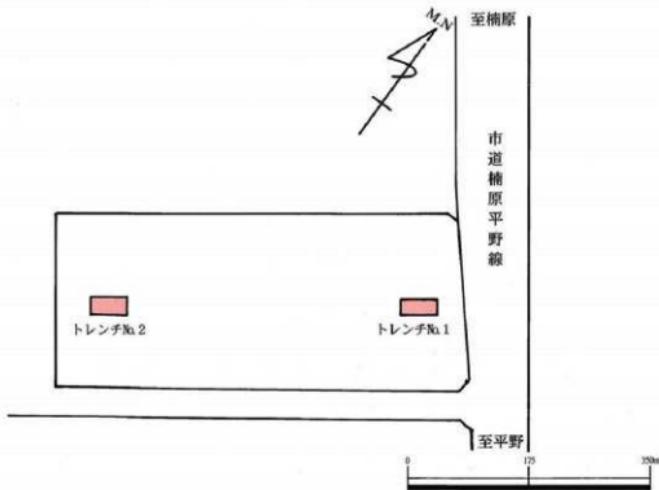
第 8 図

日南労働基準監督署建設予定地位置図



第 9 図

日南労働基準監督署建設予定地トレンチ位置図



第 10 図

日南労働基準監督署建設予定地調査区全景



図版 8

日南労働基準監督署建設予定地作業風景



図版 9

日南労働基準監督署建設予定地トレンチNO. 1 土層断面



図版 10

日南労働基準監督署建設予定地トレンチNO. 2 土層断面



図版 11

飫肥城下町遺跡

(旧安藤正春家)

【位置と環境】

飫肥城下町遺跡内の旧安藤正春家は、日南市飫肥5丁目2番26号に位置する。前述の中村邸と同じく飫肥藩伊東家時代からの町並みがよく残る一角に位置し、商人どおり（現在の国道）から大手門に向かう筋を入ってすぐの位置である。隣接地は、明治の外交官小村寿太郎の生誕地である。

旧安藤正春家は、明治40年代に飫肥の豪商山本猪平が、隣接する小村寿太郎生家が没落した後、小村寛から土地を買い取り新築した自宅である。その後、明治4年に南に主屋を増築した以外は、大きな増築も改築もなくほぼ建築当初の姿をとどめていた。

同建築物は、伝統的建造物群保存地区内の保存物件として指定してあったが、平成9年に空き家となつたことから、市で公有化するとともに平成11年度までに改修工事を実施した。

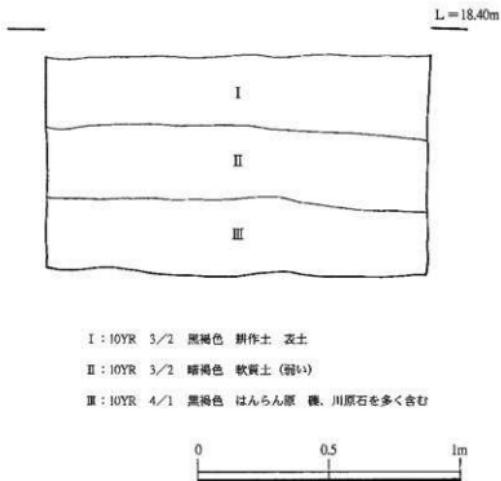
【調査の経緯】

今回の調査は、平成11年度までに実施した改修工事に引き続き、防火水槽埋設工事に伴う文化財の有無を確認するための調査として実施した。確認調査では、防火水槽埋設予定地に1.5メートル×3.0メートルのトレーナーを1カ所設定して、遺物・遺構の検出に努めた。なお、調査は、平成12年7月11日から同年7月17日までの間で実施した。

【調査の結果】

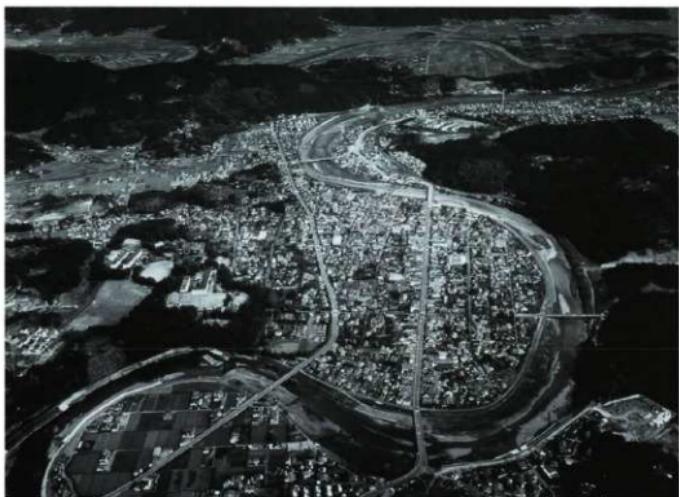
今回の調査の結果、遺構、遺物とも確認されなかった。前述の中村邸と同じく約1メートル50センチほどで、酒谷川の氾濫原跡確認できた。

飫肥城下町遺跡（旧安藤正春家）土層断面図



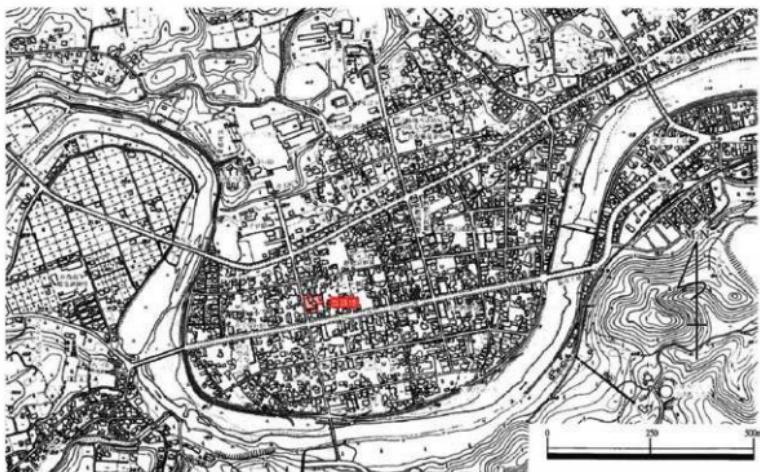
第 11 図

飫肥城下町遺跡（旧安藤正春家）全景



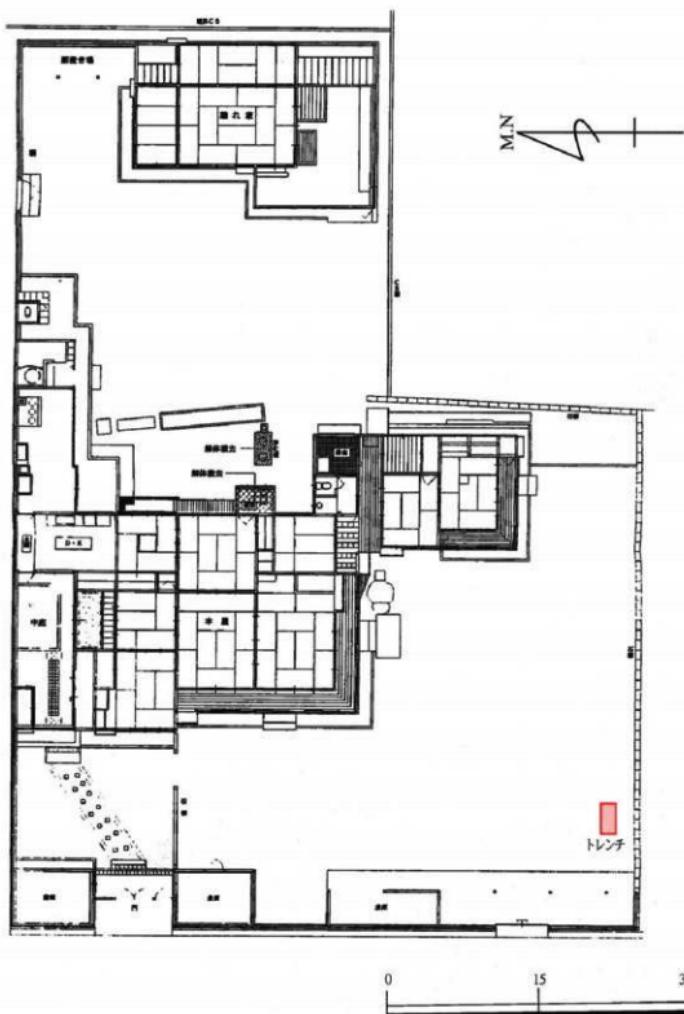
図版 12

飫肥城下町遺跡（旧安藤正春家）位置図



第 12 図

飫肥城下町遺跡（旧安藤正春家）トレンチ位置図



第 13 図

飫肥城下町遺跡（旧安藤正春家）トレント土層断面



図版 13

飫肥城下町遺跡（旧安藤正春家）作業風景



図版 14

スーパー・トムラ吾田店建設予定地

〔位置と環境〕

スーパー・トムラ吾田店建設予定地は、日南市中央通り2丁目10-1に位置する。周知の埋蔵文化財包蔵地には、含まれないものの文化財の有無を確認するために試掘調査を実施した。当該開発予定地は、国道220号線に沿って位置し、すぐ北側にはJR日南線が通っている。約7000m²のこの敷地は、以前は全国展開の大型スーパー進出の計画があったが、バブル景気後その計画は白紙撤回となった。今回のスーパー・トムラ建設設計画が打ち出されるまでは、空き地となっていた。

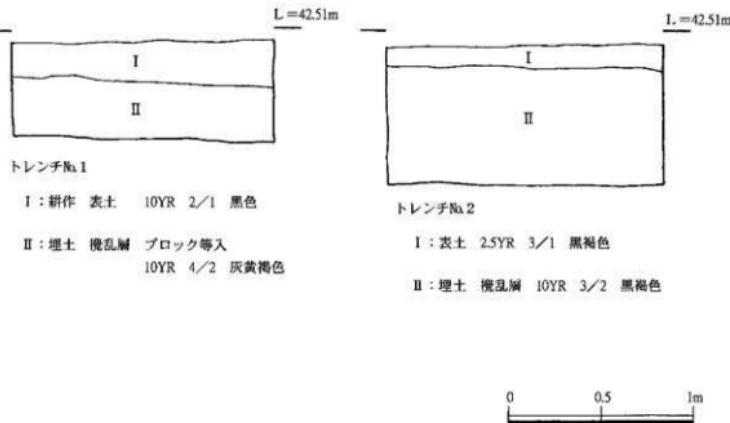
〔調査の経緯〕

今回の調査は、大型スーパー建設に伴う試掘調査で、文化財の有無を確認するために実施した。試掘調査は、平成12年6月14日から同年6月16日までの間で実施した。調査では、対象地内に1.5メートル×3.0メートルのトレーニチを東西に2ヶ所設定し、遺構・遺物の検出に努めた。

〔調査の結果〕

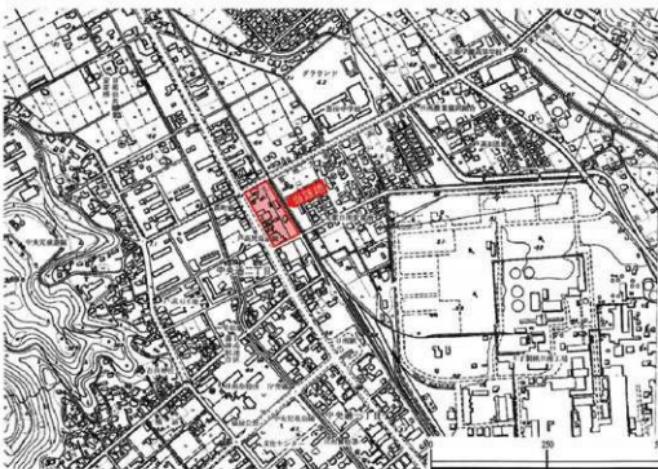
今回の調査の結果、遺構、遺物とも確認されなかった。

スーパー・トムラ吾田店建設予定地土層断面図



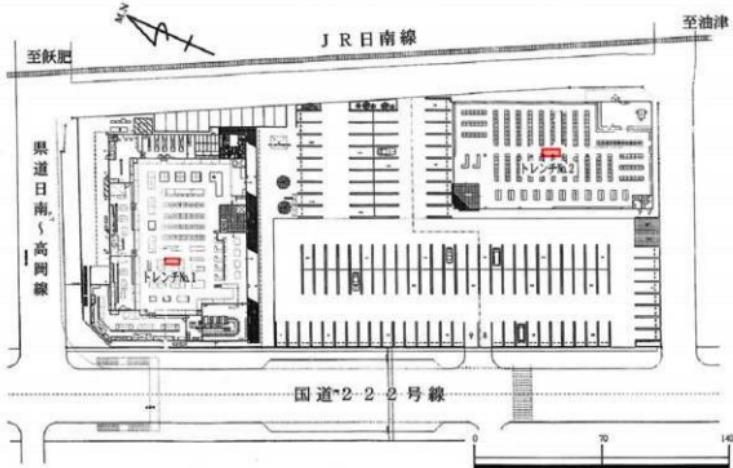
第 14 図

スーパー・トムラ吾田店建設予定地位置図



第 15 図

スーパー・トムラ吾田店建設予定地トレーニング位置図



第 16 図

スーパー・トムラ吾田店建設予定地作業風景（遠景）



図版 15

スーパー・トムラ吾田店建設予定地作業風景（近景）



図版 16

スーパー・トムラ吾田店建設予定地トレンチNO. 1土層断面



図版 17

スーパー・トムラ吾田店建設予定地トレンチNO. 2土層断面



図版 18

J - フォン九州株式会社携帯電話
無線基地局建設予定地

〔位置と環境〕

J-フォン九州株式会社携帯電話無線基地局建設予定地は、日南市大字風田字元弓場3692番地の1に位置する。周知の埋蔵文化財包蔵地には、含まれないものの文化財の有無を確認するために試掘調査を実施した。当該開発予定地は、国道220号線と県道風田星倉線とのT字交差点より西側に約200メートル程入った地点で、現在は、畠地として利用されている。携帯電話無線基地局建設予定地の風田地区には、県指定の「東郷古墳」や「孤塚古墳」が存在しており、これまで集落遺跡や生産遺跡などが発見されていないことやこの地域の試掘のデータなどが乏しいことなどを考慮して調査を実施することとした。

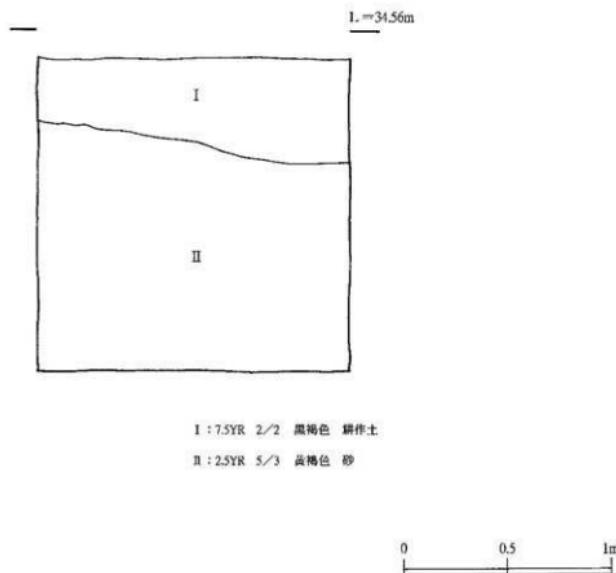
〔調査の経緯〕

今回の調査は、J-フォン九州株式会社携帯電話無線基地局建設に伴う試掘調査で、文化財の有無を確認するために実施した。試掘調査は、平成12年9月19日から同年9月21日までの間で実施した。調査では、対象地内に1.5メートル×3.0メートルのトレンチを1ヶ所設定し、遺構・遺物の検出に努めた。

〔調査の結果〕

今回の調査の結果、遺構、遺物とも確認されなかった。

J-フォン九州株式会社携帯電話無線基地局建設予定地土層断面図



第 17 図

J-フォン九州株式会社携帯電話無線基地局建設予定地位置図



第 18 図

J-フォン九州株式会社携帯電話無線基地局建設予定地トレンチ位置図



第 19 図

J-フォン九州株式会社携帯電話無線基地局建設予定地作業風景



図版 19

J-フォン九州株式会社携帯電話無線基地局建設予定地トレンチ土層断面



図版 20

飫肥城本丸跡遺跡

【位置と環境】

飫肥城本丸跡遺跡は、日南市飫肥10丁目（飫肥城跡遺跡 周知の埋蔵文化財包蔵地NO. 310）内に位置する。

飫肥城跡は、酒谷川に囲まれたシラス台地の先端部に占地して築造された。周辺の丘陵や山々には、新山城・上城・中ノ尾砦・篠ヶ城を始め、多くの城・砦・陣跡が残されている。

飫肥城の築造時期は不明であるが、古くは南北朝期の『長谷部文書』に具体的な記述を求める事ができる。この文書の中でとりわけ注目されるのが、貞和2年（1346）の「水間榮証・忠政が城郭を構える」という記述である。この時代より、在地領主同士の飫肥の支配権と利害関係をめぐる複雑な様相が浮かびあがってくる。これらのことから「城郭」を築く契機となっていたのであろう。

以後、『土持文書』によると康安2年（1362）には土持頼宣が飫肥の城を攻め落とすとの記述がみられる。

明徳2年（1391）には、島津元久が日向守護に任せられている。応永30年には、島津氏が日向伊東氏を攻略し、長禄2年（1458）には、島津忠国が、新納忠続を飫肥城主に封じている。

これ以後、島津氏と伊東氏の飫肥城攻防は激化し、文明16年（1484）から永禄11年（1568）までの間に大きく分けても9回の飫肥城攻防が伊東氏に行っている。

天正15年（1587）耳川の合戦で、羽柴秀長軍が島津軍を敗るとその功績により、伊東祐兵は、豊臣秀吉より飫肥などの1736町を宛わされる。そして、翌天正16年には、飫肥城に入る。祐兵は、その後文禄2年と慶長9年に検地を行い、後者の検地の時には5万7千80石を計った。この年に徳川幕府が開設された。

この後は、鹿児島県までの間、飫肥藩伊東家によって代々受け継がれていた。

【調査の経緯】

今回の調査は、飫肥城本丸跡全域にわたる本調査ではなく配水施設設置工事に伴う配水管埋設部分のみの確認調査として実施した。平成10年度には、台風災害により本丸東側の側面が崖崩れを起こし、大量の土砂が流出した。本丸の東側には、飫肥小学校のグラウンドが隣接しており、その安全対策が急がれた。再び崖崩れなどを防ぐためには、飫肥城本丸跡の東側に配水施設を設置する必要が生じた。排水工事に先立っては、当該地が周知の埋蔵文化財包蔵地に含まれたため、深さ約60センチの配水施設ではあったが、文化財の有無を確認するために調査をした。調査は、平成12年11月13日から同年11月30日までの間で実施した。トレーンチは、配水管埋納部分全域に渡って設定した。

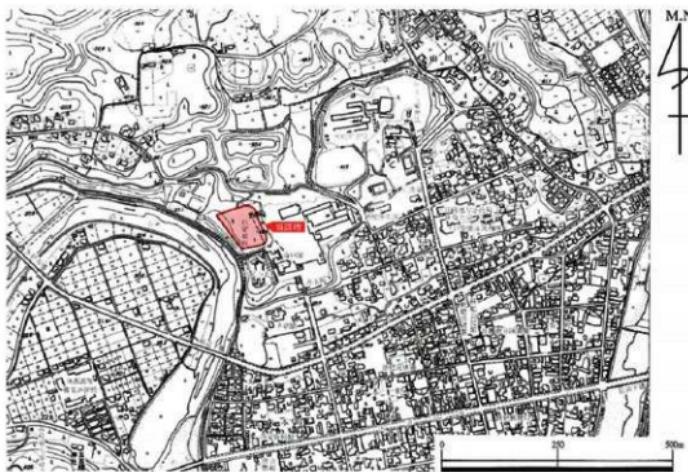
【調査の結果】

今回の確認調査結果では、本丸東側の石垣の裏込石跡を検出できた。遺物としては、瓦の破片がコンテナ・ボックス（60cm×45cm×15cm）約10箱分ほど検出できたが、そのほかの遺物は、検出されなかった。

飫肥城本丸跡の石垣についてその築造時期を明らかにすることはできないが、古くは寛文2年（1662）の「日向国飫肥城破損之覚図」に、石垣の存在を確認することができる。

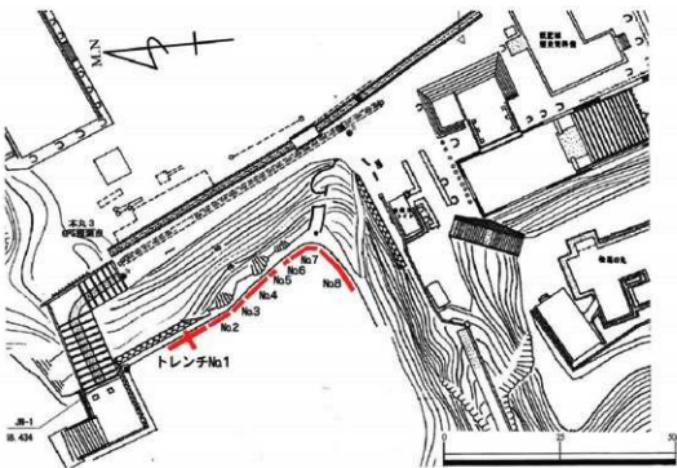
本丸跡東側の裏込石跡は、石垣の真裏に約6メートルの幅で平行する形で検出された。地表面からは、約60センチほど下がったレベルから多少の高低差があるものの大半の裏込石を検出できた。石が裏込められている石垣は、10数メートルの高さを有し、今回裏込石跡が検出された頂上部分でも石垣の真裏から、約2メートル80センチの幅で検出された。このことから推定すると最下位部分では、かなり大規模な幅で基礎が築造されていることが予想される。今回の調査では、石垣とその裏込石の状態全容を調査することはできなかったが、この調査結果が今後の本丸跡調査の際には、基礎的かつ重要な資料となるであろう。

飫肥城本丸跡遺跡位置図



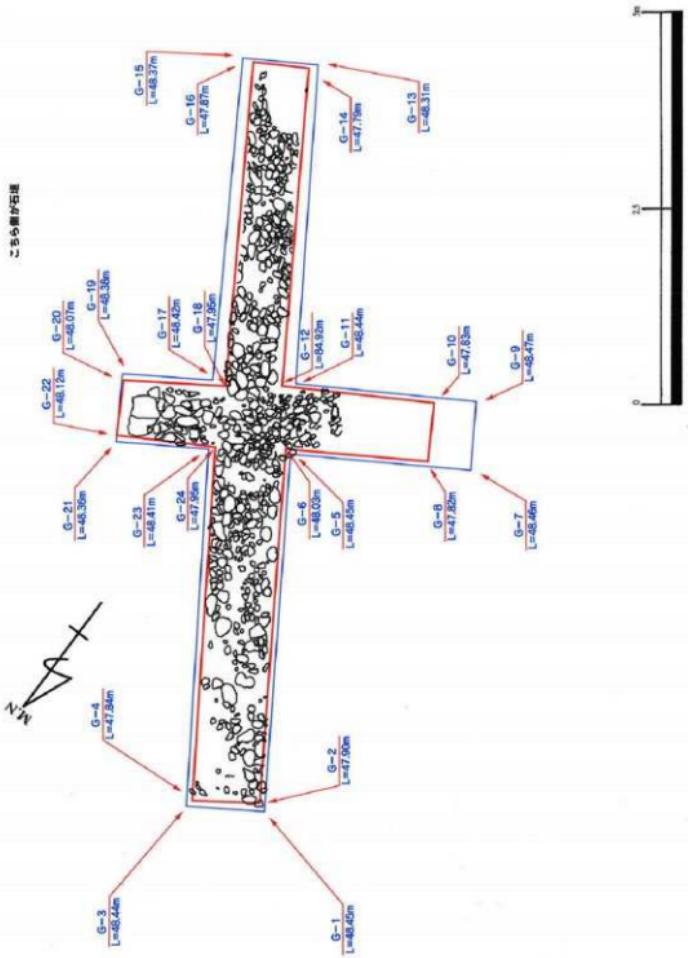
第 20 図

飫肥城本丸跡遺跡トレンチ位置図



第 21 図

飫肥城本丸跡遺跡トレンチNO. 1裏込石検出状況



第22図

飫肥城本丸跡遺跡トレンチ土層断面図 (NO. 1~NO. 4)

TR - 1

L = 48.49m

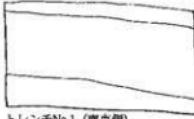


トレンチNo.1 (北西側)

- I : SYR 3/1 農作土 黒褐色
- II : 7.SYR 3/2 アカホヤを混じる 砂質土 黒褐色
- III : 10YR 3/2 アカホヤを混じる やわらかい土 黒褐色

TR - 1

L = 48.45m

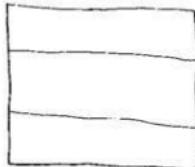


トレンチNo.1 (南東側)

- I : SYR 3/1 農作土 砂質土 黑褐色
- II : 7.SYR 3/2 アカホヤ混じる 砂質土 黑褐色
- III : 7.SYR 3/2 アカホヤ混じる やわらかい土 黑褐色

TR - 2

L = 48.40m

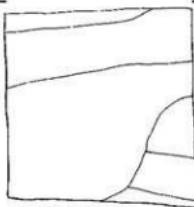


トレンチNo.2 (北西側)

- I : 10YR 3/2 表土 アカホヤを含む 黑褐色
- II : 7.5YR 3/2 やや砂質土 黑褐色
- III : 10YR 3/2 II層と同じ硬土 黑褐色

TR - 2

L = 48.05m

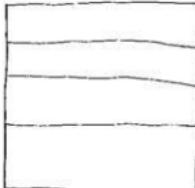


トレンチNo.2 (南東側)

- I : 7.SYR 2/2 砂質土 黑褐色
- II : 7.SYR 3/2 アカホヤ1層より多い 黑褐色
- III : 7.SYR 2/2 やわらかい 黑褐色
- IV : 10YR 4/3 アカホヤ層 にぶい黄褐色
- V : 7.5YR 4/2 シラス 黑褐色
- VI : 10YR 2/2 やわらかい土 黑褐色

TR - 3

L = 48.10m

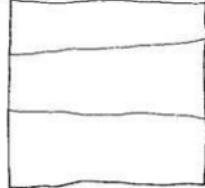


トレンチNo.3 (北西側)

- I : 10YR 2/3 アカホヤを含み混じる硬質土 黑褐色
- II : 10YR 3/2 I層よりやややわらかい 黑褐色
- III : 7.5YR 2/2 アカホヤのブロックを含む 黑褐色
- IV : 10YR 3/2 シラス混入土 やわらかい土 黑褐色

TR - 3

L = 48.15m

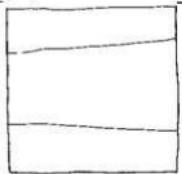


トレンチNo.3 (南東側)

- I : 10YR 2/3 アカホヤを含み混じる 砂質土 黑褐色
- II : 10YR 3/2 1層よりやややわらかい 黑褐色
- III : 7.5YR 2/2 アカホヤのブロックを含む 黑褐色

TR - 4

L = 48.12m

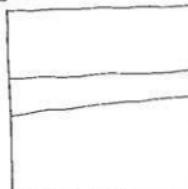


トレンチNo.4 (北西側)

- I : 7.5YR 2/2 表土 黑褐色
- II : 7.5YR 3/2 アカホヤ混入 I層よりやわらかい 黑褐色
- III : 7.5YR 3/2 アカホヤ混入 一番やわい 黑褐色

TR - 4

L = 48.12m

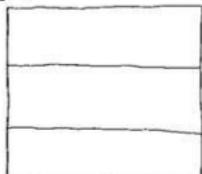


トレンチNo.4 (南東側)

- I : 7.5YR 1.7/1 黒色 アカホヤ混入 硬土 硬土
- II : 10YR 3/3 暗褐色 I層よりやわらかい 黑褐色
- III : 7.5YR 2/2 黑褐色 やわらかい アカホヤ混入 黑褐色

飫肥城本丸跡遺跡トレンチ土層断面図 (NO. 5~NO. 8)

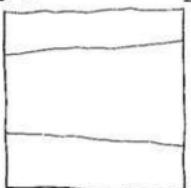
TR - 5 L=48.13m



トレンチNo.5 (北西側)

- I : 7.5YR 1.7/1 黒色 アカホヤ混入 表土 硬土
- II : 10YR 3/3 黑褐色 I層よりやわらかい
- III : 7.5YR 2/2 黑褐色 やわらかい アカホヤ混入

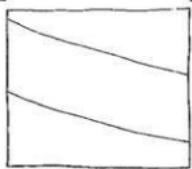
TR - 5 L=48.12m



トレンチNo.5 (南東側)

- I : 7.5YR 2/2 表土 硬い アカホヤ混入 黑褐色
- II : 7.5YR 2/1 I層よりやわらかい 黑褐色
- III : 7.5YR 2/2 I層と同じくらいのかたさ 黑褐色

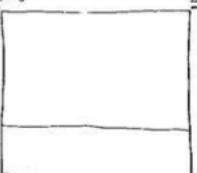
TR - 6 L=48.13m



トレンチNo.6 (北西側)

- I : 7.5YR 2/2 黑褐色 表土 硬い
- II : 10YR 3/2 黑褐色 アカホヤ混入 III層よりやわらかい
- III : 10YR 3/2 黑褐色 アカホヤ混入 II層より硬い

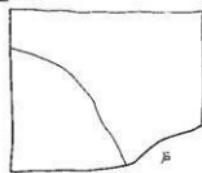
TR - 6 L=48.10m



トレンチNo.6 (南東側)

- I : 7.5YR 3/2 表土 硬い 黑褐色
- II : 10YR 3/2 I層よりやわらかい アカホヤ混じる 黑褐色

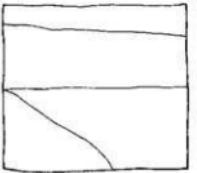
TR - 7 L=48.13m



トレンチNo.7 (北西側)

- I : 7.5YR 3/2 黑褐色 表土 硬い
- II : 10YR 3/2 黑褐色 I層よりやわらかい アカホヤ混じる

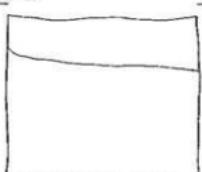
TR - 7 L=47.99m



トレンチNo.7 (南東側)

- I : 7.5YR 2/1 表土 硬質土 黑色
- II : 7.5YR 2/1 アカホヤ混入土 黑色
- III : 10YR 3/2 アカホヤ混入土 黑褐色
- IV : 10YR 2/1 やわらかい土質 黑色

TR - 8 L=48.03m



トレンチNo.8 (北側)

- I : 7.5YR 3/2 表土 硬い 周褐色
- II : 7.5YR 1.7/1 捩混層 燃焼のあとの層 黑色

TR - 8 L=48.21m



トレンチNo.8 (角側)

- I : 7.5YR 3/2 表土 硬質土 根根多 黑褐色
- II : 10YR 3/3 アカホヤ混入土 嗜褐色

飫肥城本丸跡遺跡作業前、作業風景及びトレンチNo. 1土層断面



調査前状況（北西より）



調査前状況（東より）



作業風景



作業風景



トレンチNo. 1（北西側）



トレンチNo. 1（南東側）

鰐肥城本丸跡遺跡トレンチ土層断面図 (NO. 2~NO. 4)



トレンチNo.2 (北西側)



トレンチNo.2 (南東側)



トレンチNo.3 (北西側)



トレンチNo.3 (南東側)



トレンチNo.4 (北西側)



トレンチNo.4 (南東側)

飫肥城本丸跡遺跡トレンチ土層断面 (NO. 5~NO. 7)



トレンチNo.5 (北西側)



トレンチNo.5 (南東側)



トレンチNo.6 (北西側)



トレンチNo.6 (南東側)



トレンチNo.7 (北西側)



トレンチNo.7 (南東側)

飫肥城本丸跡遺跡トレンチ土層断面NO. 8 及びトレンチNO. 1裏込石検出状況



トレンチNo.8 (北側)



トレンチNo.8 (南側)



裏込石検出状況 (北西より)



裏込石検出状況 (南より)



裏込石検出状況 (南より)



石垣真裏状況 (南より)

調査にご協力いただいたみなさん



鎌田留次郎 平川フミオ 黒木正男 岩永典良 鎌田和枝 山室 光
金丸恵美子 杉元早苗 倉元ハルエ 長友ヤツミ 前田マサコ 黒木力ヨ 大田原俊太郎

整理作業にご協力いただいたみなさん



貴島芳栄 川瀬 真 谷口キヨ子

日南市埋蔵文化財調査報告書 第13集

平成12年度 日南市内遺跡発掘調査概報

2001年3月

編集発行 宮崎県日南市教育委員会
〒887-8585 日南市中央通1丁目1番地1
電 話 0987-31-1145
印 刷 (有)ヤノオフセツト
住 所 〒889-2533 日南市星倉2丁目1番地10
電話番号 0987-25-0162 FAX 0987-25-1097

